

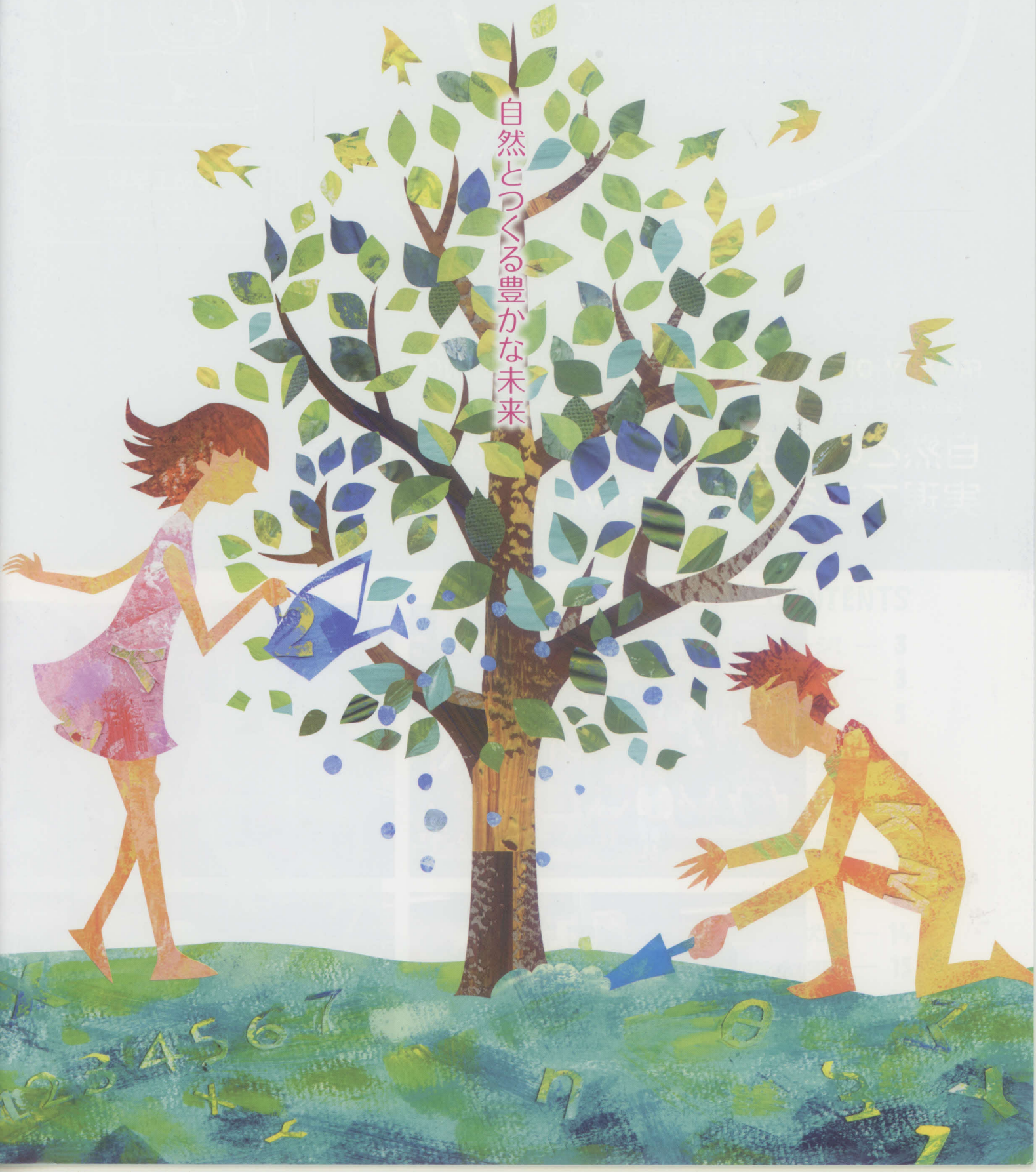
山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

FACULTY of LIFE
and ENVIRONMENTAL SCIENCES

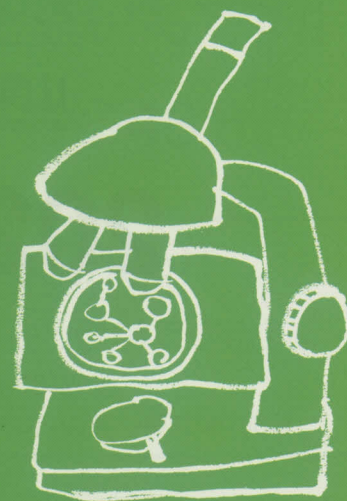


2023生命環境学部案内

自然とつくる豊かな未来



生命環境学部は
山梨大学の4番目の学部として
平成24年に誕生した文理融合型の学部です。
この学部で、自然との共生可能な豊かな
地域社会の実現を目指して
いっしょに学び、いっしょに伝統を
作っていきましょう。



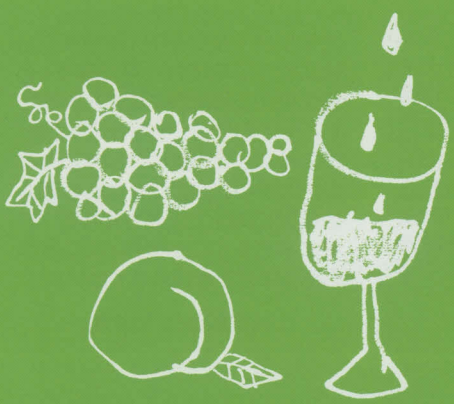
生命工学科
バイオ・メディカル
データサイエンス特別コース

FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

～自然科学と社会科学を総合的に学べる先進的な学部～

自然との共生可能な豊かな地域社会を
実現できる人材を育成します。

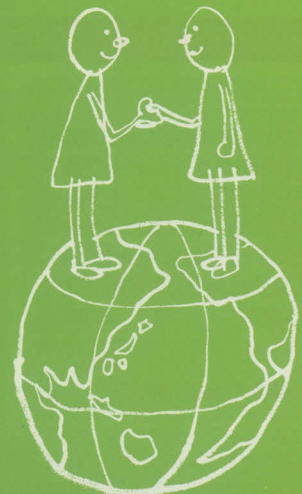




地域食物科学科
ワイン科学特別コース



環境科学科



地域社会システム学科
観光政策科学特別コース

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、理系3学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科）、文系1学科（地域社会システム学科）の4学科で構成される学部です。

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

生命環境学部



CONTENTS

在学生からのメッセージ!	— 3
生命環境学部での学び	— 3
生命工学科 (入学定員 40名) <small>(バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース)</small>	— 5
地域食物科学科 (入学定員 37名) <small>(ワイン科学特別コース)</small>	— 7
環境科学科 (入学定員 30名)	— 9
地域社会システム学科 (入学定員 48名) <small>(観光政策科学特別コース)</small>	— 11
特別コース	— 13
個別学力検査志願状況	— 14
大学院 (修士課程・博士課程)	— 15
進路状況	— 16
キャンパスライフ	— 17
関連施設	— 18

在学生からのメッセージ!

入学を決めた理由は?
どんなところが魅力?
研究内容や学生生活は?

生命工学科

研究室で酵母の研究に励むとともに、様々なボランティア活動やアルバイトにも取り組み、充実した学生生活を送っています。生命工学科での学びや経験を活かして、卒業後は公務員として働くことになりました。

4年次/女性/山梨県

私に一番身についた力は自己管理能力です。研究や部活動としてのダンスを通じて自己研鑽することで心身ともに充実した生活を送れ、忙しい中でも時間を自分なりに有効に使えるように成長できたと思います。

4年次/男性/兵庫県

iPS細胞の培地に関する研究を行っています。先生方が親身になって相談に乗ってくださいます。交換留学の機会もあり、学生生活を通して自分の学んでいる領域に限らずあらゆる物事の見方が大きく変化しました。

修士課程1年/女性/長崎県

微生物、動物の発生、医薬、タンパク質構造まで、幅広く知識と技術を学べます。顕微授精をとにかく特訓した私は、卒業研究の成果を人生初の国際論文として発表でき、その達成感は研究を一生続けたいくなるほどでした。

博士課程2年/男性/山梨県

地域食物科学科

出身地が長野県の千曲川ワインバレーにあつたためワインやブドウといった存在が身近にありました。そこで日本で唯一ワインに特化した学科のある山梨大学でワインについて学ぶことで、地元の発展に貢献したいと考えるようになったのが山梨大学に進学した理由です。現在はワインに用いられる甲州というブドウの品種特徴香を強めるためにはどうすればいいかというテーマを生理学の観点から研究しています。

3年次/男性/長野県

大学生は一生の中で1番時間を自由に使える期間だと思います。自由に使える時間がたくさんあるからこそ、その使い方がとても難しいです。山梨大学はサークルもたくさんあり、先生方もとても親身に相談に乗ってくださいますので、自分のやりたいことを探して、充実した大学生活を送れると思います!

4年次/女性/愛知県

醸造を専門的に学ぶことができる国立大学という点に惹かれました。また、食品に携わる職に興味があつたことから、食について生産から販売まで一貫した教育を行っている点についても魅力に感じました。

修士課程1年/男性/埼玉県

現在所属している食品栄養学研究室での研究活動は、私にとって非常に楽しく、充実した日々を送っています。一人暮らしをしていますが、とても温かな先生や先輩方、友人に囲まれ、和気あいあいと楽しい大学生活です。

4年次/女性/愛知県

生命環境学部での学び!

1年次

全学共通教育科目
学部共通科目
専門基礎科目

2年次

専門基礎科目
専門発展科目

「大学での学び方」を習得するとともに、社会人として必要な幅広い教養や語学、さらに今後ますます重要になるデータサイエンス等を全学共通教育科目で学びます。さらに、生命環境基礎ゼミなどを含む学部共通科目で問題解決能力を身につけます。

全学共通科目に加えて、新たに専門科目を学びはじめます。これらの科目間は「ブリッジ科目」によりスムーズに接続できます。また、地域と連携したフィールドワークなど実験・実習系の科目を通じて実践的知識と経験を深めていきます。



環境科学科

水処理技術に興味があり、また地域社会に根差した研究活動に魅力を感じたことから、環境科学科に進学しました。環境科学科ではフィールドワークを行う授業も多く、学生と先生との距離が近いところが魅力です。

3年次/女性/高知県

山梨県は多くの山々に囲まれ、町の近くにまで大自然が広がっています。自然に囲まれた好立地で自然環境について学びを深めることができます。今問題となっている環境問題について学べることに魅力を感じています！

1年次/男性/山梨県

地域社会システム学科

学科内の人数が少ないため、仲間と親密な関係を築くことができます。現在は新型コロナウイルスの影響で制約がありますが、授業や試験がないときは「新たな発見」を求めて友人と車で日本各地を飛び回っています。

3年次/男性/山梨県

地域社会システム学科は、経済や経営、政治など社会科学系の学問を幅広く学ぶことができる学科です。現時点で興味のある学問分野がない方でも、在学中に興味のある学問を見つけることができるかもしれません。

2年次/女性/山梨県

私は、大気汚染や水質汚染など環境問題を解決する技術や知識を学ぶために環境科学科を選びました。大学では、水圏科学や土壌化学性を分析する実験など、様々な講義や実験があり、充実した日々を過ごしています。

2年次/女性/ベトナム

私は学部生時代以上の研究成果を見出すために、大学院に進学し自身の興味のある微生物の有用機能を探る研究を行っています。研究に携わる経験を経て、私は論理的思考力やプレゼン力が身についたと自負しています。

修士課程1年/男性/長野県

入学の決め手は、多様な学問を学べる環境が整っていると思ったからです。私自身、高校在学中に大学で学びたい学問を決められなかったので、1年次に多様な学問を浅く広く学べるこの学科に入学しようと決めました。

4年次/男性/山梨県

私自身、大学の学部選びの際にとりわけ学びたい学問があったわけではなく、幅広く学問に触れて進路を広げるような選択のできる学部に行きたいと思い、入学しました。幅広い教養が身に付き、特に私のように、大学に入ってから専攻を選びたい方には良い学科かと思います。

4年次/女性/山梨県

3年次
専門発展科目

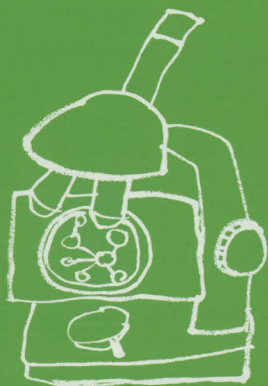
生命・食・環境・経営などの専門知識を深く学びます。さらに広範で複合的な問題へチャレンジする意欲の高い学生のために、他の学科の一部専門科目を履修できる相互乗り入れ制度を設定し、当該科目を履修することで、より幅の広い専門性を獲得します。

4年次
専門特別科目

専門特別科目の卒業研究では実践的専門職業人として必要な高度な問題解決能力を身につけます。また、特別講義などを履修し、大学院へ向けた専門知識についても深く学びます。

生命工学科 (入学定員 40名)

(バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース)



生命の仕組みを解き明かす 最先端バイオ技術を学ぶ!

最先端のバイオサイエンスを基盤に
高い創造力をもって未来のバイオ産業を
担うことのできる人材を養成します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

生命工学科、バイオ・メディカルデータサイエンス特別コースにおける学び

実験実習を重視した実践的教育体制

■生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

生物学概論、生命研究倫理学、基礎生化学、基礎微生物学、基礎有機化学、生命統計情報学、創業概論 など

■バイオサイエンス、バイオテクノロジーを深く学ぶ。

◎バイオモデル、微生物・食品衛生モデル、バイオ・メディカルデータサイエンスモデル(下図参照)等の
授業科目を履修することで、各分野の最先端の知識を身につける

◎化学・生化学・微生物学・分子生物学・細胞生物学・発生工学の各実験を通じて実験スキルを修得する

興味と関心	得られる知識・スキル・主な開講科目	進路・就職先
バイオモデル ●医療産業・食品分野で活躍する技術者 ●バイオテクノロジー	●細胞培養とバイオプロセスの技術 ●細胞、遺伝子、発生の知識と応用 ●食と健康に関する知識 【分子発生・幹細胞生物学】 【分子生物学】 【発生工学】 【細胞生理学】 【生物化学工学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 食品産業
微生物・食品衛生モデル ●発酵産業・食品分野で活躍する技術者 ●バイオテクノロジー	●微生物と食、バイオプロセスに関する知識と技術 ●食品衛生に関する知識 ●細胞、遺伝子の知識と応用 【応用微生物学】 【生物化学工学】 【分子生物学】 【食品加工学】 【食品衛生学】 【発酵工業学】	発酵産業 公務員等 食品産業 大学院進学 製薬産業
バイオ・メディカルデータサイエンスモデル ●データサイエンスのスキルを生かして医療分野で活躍する技術者 ●医学・薬学	●データサイエンスに関する知識とスキル ●医学・薬学に関する知識 ●細胞、遺伝子、発生の知識と応用 【生命工学データサイエンス】 【大規模生命情報解析学】 【基礎薬理学】 【基礎免疫学】 【分子生物学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 情報産業

■有用物質生産、食品生産・加工などの分野の技術者・研究者になる。

- ◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等) ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料など)
- ◎医療系産業(機器、分析など) ◎不妊治療施設・クリニック(胚培養士など) ◎環境産業(廃水処理、環境分析)
- ◎農業関係法人(JAなど) ◎学術・研究機関 ◎地方公務員 ◎国家公務員

Check Point !!

■生命工学科では、指定単位を修得することにより、卒業時に食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格が得られます。さらに令和4年度に設置された「バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース」では、医学・薬学の基礎知識をもちデータサイエンスのスキルを身に付けた生命科学系専門職業人の養成を目的に、生命科学・医学・薬学分野における数理・データサイエンス教育を行います。

■多くの卒業生はバイオサイエンス関連の様々な分野で活躍しています。主な就職先は生命工学科ホームページ

(<https://www.bt.yamanashi.ac.jp>) をご覧ください。

■本学科につづく大学院に修士課程及び博士課程が設置されており、毎年卒業生の約7割は修士課程へ進学します。



生命環境学部
生命工学科
ホームページ



専門科目名などの
詳細は学科HPで。

<https://www.bt.yamanashi.ac.jp>

専門科目名などの詳細は学科ホームページで。 <https://www.bt.yamanashi.ac.jp>

生命工学科では、分子生物学、生化学、細胞生理学といった生命科学の基礎を身につけるとともに発生工学や幹細胞生物学、応用微生物学、バイオインフォマティクスなどを始めとする最先端の生命科学・生命工学を学ぶことで、再生医療（iPS細胞、ES細胞、クローン技術）、生殖補助医療（体外受精、発生工学）、食料生産・食品衛生（機能性食品、醸造、発酵工業）、健康増進（医薬品、有用微生物、化粧品、香料）、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身につけることができます。

研究室紹介

生命工学科では3つの分野※で先端的研究を行っています。4年次に研究室に所属し、学部の集大成として卒論研究に取り組みます。半数以上の学生が大学院に進学し、より高度な研究に携わっています。

※【3つの分野】 ★動物発生・細胞培養工学分野
★微生物機能・生態応用工学分野 ★ナノバイオ・医薬工学分野

★発生工学研究室

教授／若山 照彦 助教／若山 清香

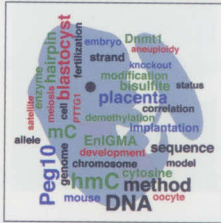
マイクロマンニピュレーターによる顕微授精技術やクローン動物の作出は、再生医療や農業、さらには宇宙時代の生活を大きく変える可能性を秘めています。これらの技術は発生工学と呼ばれるもので、私たちはこの技術を駆使して従来不可能だった実験に取り組むと同時に、エキスパートの養成を目指しています。



★発生ゲノム科学研究室

教授／幸田 尚 助教／志浦 寛相

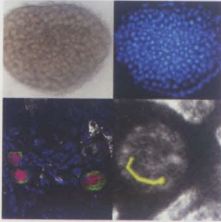
初期発生における遺伝子発現の制御、胎盤形成の機構の解明など、人を含めた哺乳類の初期胚発生に重要な過程を分子生物学的なアプローチで研究を行っています。また、次世代シーケンサーを使った単一細胞の遺伝子発現解析やゲノム解析のための新規技術の開発も同時に行なっています。



★生殖細胞発生研究室

教授／永松 剛

生殖細胞は世代を超えて種の永続性を支える細胞で、特に卵子は胚発生能を担っています。私たちは卵子の発生過程をたどっていくことで、卵子の機能を保持するメカニズムの解明を目指しています。そして加齢によって低下する卵子の機能を補完する方法の開発に向けて研究しています。



★応用微生物学研究室①

准教授／山村 英樹 助教／小久保 晋

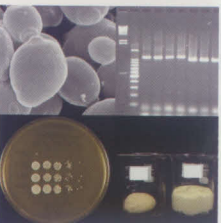
抗菌・抗がん剤などの医薬品原料を生産する放線菌を日本各地・世界から探索しています。得られた放線菌は、ゲノム解析や新種提案、抗生物質の同定、植物栽培への応用研究を行っています。医薬・食品業界で必要とされる微生物の取り扱い技術や遺伝子解析、抗菌活性試験などの技術を身につけられます。



★応用微生物学研究室②

准教授／中川 洋史

有用微生物である酵母は発酵食品や医薬品、化粧品の製造など幅広い産業に用いられ、さらに真核生物のモデル生物としても重要です。一方で、産業界では微生物の機能向上が課題となっています。私達は酵母を用いて、微生物の機能を高めるための新しい育種技術の開発や、ストレス耐性を強化するための研究に取り組んでいます。



★微生物利用工学研究室

准教授／大槻 隆司

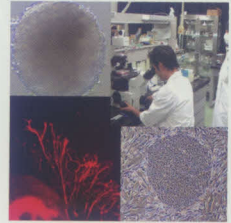
バイオの世紀と呼ばれる現在、人類が地球環境と共存して発展するにはバイオ技術が必要です。私達は生物の未知の能力を発掘し、その機能をタンパク質や遺伝子のレベルで解明し、バイオマス活用技術へ応用することで未来を豊かにする研究を行っています。



★細胞培養工学研究室

教授／黒澤 尋 助教／大貫 喜嗣

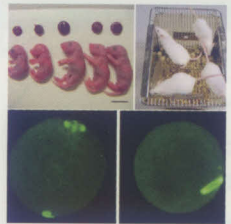
培養工学の観点から、iPS細胞やES細胞などの多能性幹細胞を使った再生医療の実用化を目指しています。多能性幹細胞から効率よく目的細胞をつくり出すため、細胞の増やし方（増殖法）や心筋などの機能細胞に変化させる技術（分化誘導法）、さらには細胞の品質評価法の開発を行っています。



★胚環境研究室

教授／岸上 哲士

胚の発生は、卵子の老化や培養環境、また「核の質」などの要因により大きな影響を受けます。また胚や胎児の環境が個体の遺伝子発現や性質にまで影響することも明らかになりつつあります。私達は、哺乳類の個体発生や個体の性質に影響を及ぼす胚の仕組みを明らかにする研究を行っています。



★器官形成ダイナミクス研究室

教授／鈴木 堅太郎

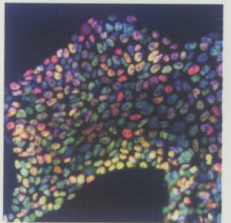
私達は、ライブイメージングや遺伝子改変マウスなど発生生物学的アプローチを軸に、器官形成および性差が形成される仕組みの解明を目指しています。さらに性を考慮した個別化医療に向け、組織、器官レベルで性差を可視化できる研究モデルの開発を行っています。



★細胞ポテンシャル研究室

准教授／石内 崇士

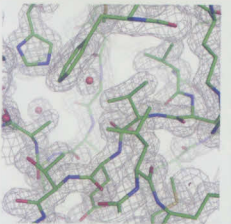
多能性を持つES細胞やiPS細胞に対し、受精卵は全能性を持つと理解されています。しかしながら全能性を分子レベルで理解することはできていません。私達は独自の技術を開発しつつ細胞ポテンシャルの制御の仕組みを明らかにする研究を行っています。



★蛋白質構造生物学研究室

教授／大山 拓次

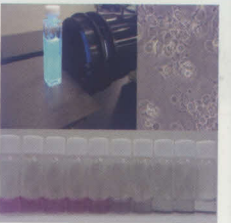
タンパク質は生物の主要成分の一つであり、酵素や物質輸送、シグナル伝達など、生物の多彩な機能を実現する魅力的な分子です。私達はタンパク質の複雑な立体構造をX線結晶構造解析法を使って決定し、生物の仕組みを理解する研究を行っています。



★ナノバイオテクノロジー研究室

准教授／新森 英之

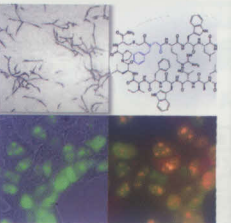
近年、生体の機能に倣った科学はナノバイオテクノロジーという新分野へ発展しています。そこで我々は、生体機能を利用した新規な機能性材料・薬剤の開発を目指しています。具体的には、多彩な物質工場である生物をミクロな科学的視点で解き明かし、人に役立つ医薬品やバイオセンサー、バイオマシン、生体適合材料等の開発研究を行っています。



★医薬分子工学研究室

助教／川上 隆史

私達は独自のケミカルバイオロジー技術を用いて、ガン、自己免疫疾患、動脈硬化症、アレルギー性疾患、アルツハイマー病、糖尿病、コロナウイルス肺炎などの様々な病気に対する新規ペプチド医薬品（分子標的治療薬）を開発する研究を行っています。また、それらの医薬品を発見するための新しいケミカルバイオロジー技術を開発する研究を行っています。



地域食物科学科 (入学定員 37名)

(ワイン科学特別コース)



人類の生存に欠くことのできない 食物について学ぶ!

地域性に富むワイン科学特別コースを学科内に設置。

カリキュラムの構成

進路を見据えて学ぶ



地域食物科学科・ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がる新しいカリキュラム

■食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

◎果樹、農作物の栽培 ◎微生物学 ◎食品製造学 ◎生物学 ◎栄養学

■食物科学を深く学ぶ。

◎農産物の生産 ◎食品製造の科学
◎食品微生物の分子生物学的解析と利用
◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

■ワインの科学を深く学ぶ。

(ワイン科学特別コース)

◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術
◎ワインの成分の分析と利用

■食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる。

◎食品産業、醸造産業 ◎製薬産業 ◎ワイン産業 ◎果樹栽培業
◎食品加工産業 ◎農業生産関連産業 ◎大学院 ◎国家・地方公務員

Check Point !!

■人類は有史以来、食品を作り続けてきました。かつてないスピードで進む環境破壊、そして人口増加、食物を取り巻く状況は大きく変化しています。地域食物科学科では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高める教育を行います。

■教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。

生命環境学部

地域食物科学科
ホームページ



専門科目名などの
詳細は学科HPで。



<https://www.fp.yamanashi.ac.jp>



地域食物科学科は、食物（食品製造、食品栄養、園芸）およびワイン製造に関する知識・技術（微生物、機能成分、果実遺伝子）を学べる新しい学科です。バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン製造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学びます。

■研究室紹介

地域食物科学科では、4年次に研究室に配属され、食物やワインに関する卒業論文研究に取り組みます。下記の6つの研究室があります。園芸学、食品製造学、食品栄養学、果実遺伝子工学、機能成分学、発酵微生物工学について研究を行います。

安心して食べられる野菜や果物の安定生産を目指して

★園芸学研究部門

教授／村松 昇 准教授／矢野 美紀

食は、私達に心身の健康と豊かな生活をもたらす大切な存在です。しかし、近年、食の安全を脅かす事件や、異常気象による農作物被害が多発し、多くの人が食に関する不安をつらめています。当研究室では、安全な食物を安定的に供給するシステムの構築を目指し、情報通信技術の農業への利用を検討しているほか、植物工場利用、これまで生産が少なかった果樹品目の栽培など、最新技術を用いた新たな農業に向けた研究に取り組んでいます。また、農薬や化学肥料を使わず、土壌微生物の働きを高める野菜の栽培法の研究も行っています。



食品製造を科学的に理解し、実践するフロンティア

★食品製造学研究部門

教授／舟根 和美 准教授／三木 健夫

食べ物のおいしさ、食べやすさに直結する、食品の食感や製造方法に関する研究をしています。様々な加工条件による食品の性質を、食品の物性と構造の両面から解析し、新たな食品価値を創造します。さらに酵素を利用した新しい食品素材の開発にも取り組みます。

また、酵母の遺伝子に関する研究を行っています。発酵食飲料製造に欠かせない「酵母」の性質は、遺伝子の相互作用によって生じています。遺伝子を構成するDNA配列を多面的に解析し、様々な情報を得ることにより「酵母」の持つ高次機能についての研究（高浸透耐性、アミノ酸資化性、細胞外タンパク質機能等）を行っています。

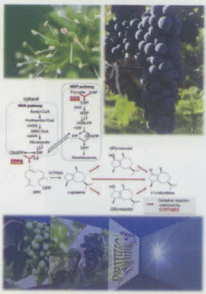


美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する

★果実遺伝子工学研究部門

教授／鈴木 俊二 准教授／山下 裕之 助教／榎 真一・青木 直

果実遺伝子工学研究部門では、「美味しいブドウをつくる・手間をかけず栽培する」をキーワードに、基礎研究および応用研究を行っています。「美味しいブドウをつくる」ために私たちは分子育種と古典的な交雑育種を組み合わせ、香りに特徴をもち、着色性に優れ、高品質でかつ病気に強い理想的なブドウの育成を目指しています。また、「手間をかけずに栽培する」ためにはブドウの樹の形にこだわり、省力的、高品質安定生産が可能となる新整枝・せん定法を研究しその有利性を明らかにしています。さらにもともと自然界に生息する微生物を活用してブドウを病害虫などから守る農業の開発も行っています。



栄養素の健康維持に対する役割を研究し、地域に貢献する

★食品栄養学研究部門

教授／望月 和樹 助教／石山 詩織

私たちは、毎日食物から多くの栄養素を摂取して生きています。これらの栄養素には、エネルギー源となる栄養素（糖質、脂質、タンパク質など）、体を形作る栄養素（タンパク質、ミネラルなど）、代謝を助ける栄養素（ビタミン、ミネラルなど）などがあります。健康な生活を営むために、これらの栄養素の適正な摂取が必要となります。さらに、近年では、これらの栄養素に区分されない食事因子（食物繊維や、抗酸化食品成分など）も私たちの体にとって大切な役割を担っていることがわかってきました。食品栄養学研究部門では、食生活と密接に関連している疾患（生活習慣病やアレルギー疾患）の予防を目標に、栄養素および食事因子の役割を探求することを目標に研究を行っています。



ワインの「おいしさ」を科学する

★機能成分学研究部門

教授／奥田 徹 准教授／久本 雅嗣 助教／斉藤 史恵

ワインの「おいしさ」は「色」「香り」「味」が三位一体となって作りだされています。すなわち、「おいしい」ワインを造るためには、「色」「香り」「味」に関わる成分の化学構造や性質、生成する要因を科学的に解明することが重要です。私たちは、醸造中や熟成中に、どのような成分がどのようなメカニズムで抽出・生成されるのかを解析し、より優れた醸造技術への応用を目指しています。また、人がおいしさを感じるメカニズムについても注目しています。嗜好性や生体調節効果を持つ化合物を利用することで、より魅力のあるワインを造ることを目指し、研究に取り組んでいます。



発酵を科学し、豊かな食生活に貢献する

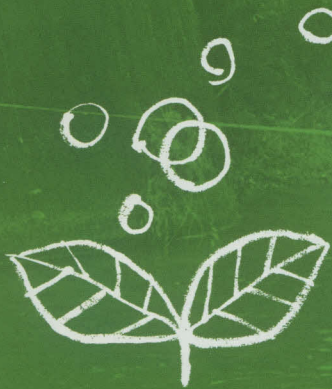
★発酵微生物工学研究部門

教授／柳田 藤寿 准教授／岸本 宗和・乙黒 美彩

ワインをはじめとする発酵食品の製造において、酵母や乳酸菌は様々な成分の生成を通して発酵食品の品質に大きな影響を与えています。我々はワイン醸造環境（ブドウ園、ワイナリー）や自然界（湖、花）から酵母や乳酸菌などの有用微生物を探索し、香气成分や代謝産物など微生物の持つ未知の能力を解明することで、ワインや発酵乳飲料など個性豊かな発酵食品の開発を目指し研究を行っています。



環境科学科 (入学定員 30名)



豊かな自然環境を次世代に残すための知識と技術を学ぶ!

人類の生存基盤である地球環境の理解を通じ、自然を共生した持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ



環境科学科における学び

環境科学科には、しっかりとした理系教養の基礎を身につけて自然の仕組みを解き明かし、次世代に豊かな環境を残していくために必要な専門的な知識・技術を得るカリキュラムが用意されています。

■環境科学に関わる理系教養の基礎をしっかり学ぶ。

- ◎基礎物理学 ◎基礎環境化学 ◎生物学概論 ◎基礎数学 ◎データサイエンス及び演習 ◎生命環境基礎ゼミ ◎生物資源論 ◎生物資源実習 ◎環境科学基礎実験 ◎自主ゼミ(=学生が自主運営する実験活動・勉強会) など

■環境科学に関わる専門的な知識を得る。

- ◎大気環境科学 ◎生物多様性科学 ◎森林環境学 ◎水圏科学 ◎土壌学 ◎自然保護学 など

■環境科学に関わる専門的な技術を習得する。

- ◎河川実習 ◎大気科学実習 ◎土壌学実習 ◎環境生物学実習 ◎環境データ解析実習 など

■環境科学に関わる専門的な知識・技術をもち、環境問題の解決に活かす人材になる。

- ◎環境コンサルタント業や環境分析業等の環境産業、自治体や各種公共団体に就職 ◎専門性を高めるために大学院へ進学(卒業生の約4割が大学院に進学)

Check Point !!

■環境問題の背景と概要に関する「基礎知識」や大気・水・土壌・生物と人間との関わりに関する「専門知識」を学ぶとともに、人間活動の影響を評価するための「環境計測技術」や環境管理・修復に不可欠な「環境保全技術」を身につけるためのカリキュラムを用意しています。これら専門科目の深い学びを通じて、自然科学の知識と技法に基づく問題解決能力を培います。さらに、「アクティブラーニング」を積極的に取り入れることにより、主体的に考える力と他者との対話や合意形成のための素養を身につけます。これによって環境に関わる学問的課題や社会的課題を自ら見出し、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組むことができる環境人材を養成します。

生命環境学部

環境科学科
ホームページ



詳細は学科HPで。

<https://www.ev.yamanashi.ac.jp>



教育・研究指導を担当する教員は「環境科学」に係る幅広い分野のエキスパートにより構成されており、その研究成果は国内はもちろんのこと、国際的にも高く評価されています。各教員の研究テーマは以下の通りです。

環境科学科の研究テーマ

大自然に潜む「カタチ」の不思議

教授／島 弘幸

動植物や大自然の景観が私たちに魅せる美しい「カタチ」を科学的に調べています。その不思議な形成メカニズムを解明することで、大自然に横たわる新しい科学法則の発掘を目指しています。



流域の物質循環と健康・生活

教授／西田 継

森林・農地・都市の水と栄養のバランス、地下水の涵養と汚染の仕組み、感染症、水や農業と福祉・経済の関係について、山梨・アジア・アフリカ・欧州の各地で調査と研究を行っています。



森林生態系における物質循環

助教／向井 真那

樹木はどのように効率よく土壌から栄養を獲得しているのでしょうか。様々な森林を比較しながら、直接は見えない地下部に着目し、土壌と樹木の相互作用の観点からその戦略に迫ります。



植物に対する環境ストレスの影響

助教／黄瀬 佳之

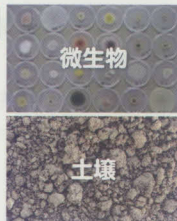
大気汚染や気候変動が植物に及ぼす悪影響の解明とその対策に取り組み、食料生産や温暖化防止などの植物が有する有益な機能の維持・発揮を目指しています。



土壌微生物の生態と有効利用に関する研究

准教授／片岡 良太

土壌微生物の機能を利用して環境を制御することを目標に研究を行っています。室内実験と屋外での調査・研究を互いにフィードバックさせながら自然の実態に肉薄したいと考えています。



新しい微生物資源の開拓と利用

准教授／田中 靖浩

培養が難しい未知微生物の分離培養を可能とする技術の開発、取得した未知微生物を用いた環境保全や浄化、有用物質生産等に関する研究を行っています。



環境微生物を利用した水処理技術

助教／亀井 樹

微生物の力を用いた排水・上水処理技術の研究・開発し、環境に配慮しながら私たち人間が健康で安心・安全な生活を持続できる社会の構築を目指しています。



流域生態系における食物網の構造と動態

教授／岩田 智也

陸一河川一海洋間の物質フローの経路とダイナミクスを調べることで、流域における生物群集の維持機構を明らかにしていきます。



大気中の微量化学成分の動態と環境への影響

准教授／松本 潔

微量化学成分の大気環境中での動態についてフィールドでの観測に基づく研究を行い、これらの成分が気象や気候、生態系に与える影響の解明を目指しています。



大気および海洋環境を対象とした光学観測

准教授／小林 拓

海の汚れや気候に影響を与える空に舞う微粒子の量や性質を、宇宙から調べる(リモートセンシングといいます)ための基礎的な研究を行っています。



衛星観測・数値モデルによる河川流量測定

教授／石平 博

数値モデルや衛星観測技術を用いて、世界の様々な地域における河川流量を推定・予測する方法の開発に取り組んでいます。



流域～全球スケールの水循環

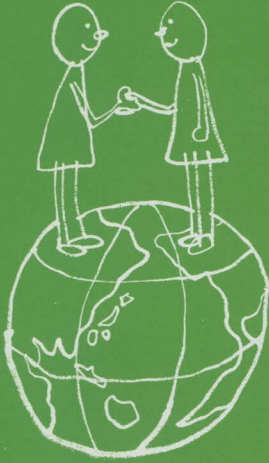
准教授／馬籠 純

衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水循環と社会の関係性について、流域スケールと全球スケールの2つの視点から研究を行っています。



地域社会システム学科 (入学定員 48名)

(観光政策科学特別コース)



マネジメント・プロフェッショナルになる!

文理融合の生命環境学部の中にある「オンリーワン」の文系学科。
 経済、経営、法律、政治、政策、地域計画、数理分析について深く学び
 地域を「マネジメント」する能力を身につけ、
 自然と社会の共生に基づく「持続可能な発展」に貢献する人材を目指します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ



地域社会システム学科・観光政策科学特別コースにおける学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける

■ 地域社会システムの様々な構成要素と地域発展に関する基礎知識をしっかりと学ぶ。

- ◎ 経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎ 統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎ 共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目

■ 経済学、経営学を深く学ぶ。

- ◎ 経済学の理論と経済現象の分析方法
- ◎ 経営学の理論と企業経営の分析方法

■ 法学、政治学を深く学ぶ。

- ◎ 基本的な法律知識と法学的な分析方法
- ◎ 政治学や行政学の理論と政策過程の分析方法

■ 地域計画、数理分析スキルを深く学ぶ。

- ◎ 地域計画の理論、方法、関連計画や政策
- ◎ 統計学や経済数学など、計量的な分析方法と管理方法

■ 観光経営・観光政策を学ぶ。

- ◎ 観光経営・観光マーケティング・観光行政・観光政策の理論と手法
- ◎ 観光資源を活かした地域づくりなど

■ 民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる。

- ◎ 国家公務員 ◎ 地方公務員 ◎ 一般企業(製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど)
- ◎ シンクタンク ◎ 起業家 ◎ NGO・NPO ◎ 大学院進学など

Check Point !!

■ 地域社会システム学科で、学生は、地域社会のマネジメントに関する専門知識やスキルを体系的に修得するとともに、地域に対する知識とグローバルな知識を両立させながら、幅広い視野から社会を「マネジメント」する能力を身につけます。

■ また、観光政策科学特別コースに所属する学生は、地域社会システム学科の専門科目に加え、観光経営・ビジネス分野および観光行政・計画分野の専門知識を習得できます。

■ 卒業後の進路として、民間企業・官公庁・地方自治体・公益法人・各種団体・大学院進学など、幅広いものが期待できます。

生命環境学部

地域社会システム学科
ホームページ



専門科目名などの
詳細は学科HPで。

<https://www.ss.yamanashi.ac.jp>



地域社会システム学科は、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理、観光などの専門知識を学び、人類が直面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい、地域社会の繁栄の実現に貢献できる人材を養成します。

履修可能な科目群



【経済】社会科学入門、財政学

准教授／門野 圭司

政府の経済活動を研究対象とする財政学の学習を通じて、経済的に不遇な人たちの言い分にご共感できる心と、経済の実態を科学的に理解する頭脳と、両方を身につけることの大切さを掴み取ってもらえればと思います。

【経済】マクロ経済学、食料問題とグローバル経済

教授／渡邊 幹彦

マクロ経済学では、国全体が豊かであり続けるための経済政策について学びます。食料問題とグローバル経済では、この経済政策をグローバル社会の進展にどのように対応させるのが良いかについて学びます。

【経済】公共経済学

教授／渡邊 靖仁

ミクロ経済学の理論を用い、市場の失敗・政府の失敗の発生理由と対策を分析し、効率と公平・貢献原則と平等原則などのトレードオフ関係について認識を深め、経済社会を公・共・私の3視点から把握する力を涵養します。

【経営】経営戦略論、経営組織論

准教授／佐々木 博之

良いマネジメント(経営)ができれば、顧客や従業員、投資家などの利害関係者に十分な価値を提供でき、企業は存続・発展します。そのための戦略と組織づくりについて、最新の研究成果と企業事例から学びましょう。

【経営】経営学概論

教授／西久保 浩二

経営学を実践的な視点から幅広く学ぶことを通じて、企業経営を科学的に分析、評価し、そして改革できる力を身につけます。また、日本企業が持続的な競争優位に立ち、生存、成長する戦略を学びます。

【法律】日本国憲法、統治機構論

准教授／石塚 迅

法学分野の科目の中で、主に憲法に関連する科目を担当しています。私たちが享有する人権にはどのようなものがあり、それを保障するための統治のシステムはどのようなものであるべきかについて考えます。

経済 経営 法律 政治 政策 計画 数理 観光

【法律】民法学I・II

教授／福田 和也

社会生活上しばしば接することとなる民法を中心に講義を行っています。主として知識の習得になりますが、民法学における思考方法も適宜紹介したいと考えています。

【法律】行政法I・II

助教／若生 直志

行政活動が社会の様々な領域に及んでいくにつれ、その法的コントロールの必要性も高まっています。国民の権利を保護すると同時に、社会を発展させていくための法制度について考えます。

【政治】政治学概論、環境政治論

准教授／金 基成

政治思想・政治体制・政治システム・民主主義・社会運動・市民参加など、政治学の基礎知識と考え方を習得するとともに、生態学的に持続可能な社会のあり方と政治過程上の諸課題について討論します。

【政治】国際関係論I・II

准教授／小松 志明

国際関係論を基礎から学んで、世界の構造や歴史、具体的な諸問題について理解を深めます。地域社会のことを考える時にも、グローバルな視点から世界とのつながりを意識できるようになってもらえればと思います。

【政治】行政学、地方自治論

准教授／藤原 真史

政治学の一分野である行政学、地方自治論では、国や地方自治体のさまざまな活動を支える行政資源(ヒト、モノ、カネ、情報等)やそれらを活用して産み出される政策について、理論や歴史、現状、課題等を学びます。

【政策】環境経済政策論I・II

准教授／喜多川 進

日本のみならず海外の具体的な環境政策の事例を通して、環境政策の推進・阻害要因および環境問題解決のための望ましい政策のあり方を学びます。

【計画】地域計画学、地域共生デザイン

教授／大山 勲

都市や農村地域の計画、景観・環境・観光などの個別計画、商業・交通・集落空間などのデザイン、法定計画の限界、市民行政協働まちづくりの実践など、地域の持続と活性化を進めるための計画づくりの基礎を学びます。

【計画】エネルギーマネジメント、数理計画法

准教授／島崎 洋一

地域社会における望ましいエネルギーの使い方について学習します。行政や企業におけるエネルギーの導入計画、経営管理を主題とします。身近な例として、家庭の電力測定演習を行います。意思決定の手法を理解します。

【計画】経済地理学

准教授／宮川 雅至

地域の社会経済現象を場所・空間に着目して客観的に分析し、問題解決につながるための立地モデルを学びます。土地利用、施設配置、商業立地などを対象に、モデルを実際の地域に適用することを目指します。

【数理】経済・経営数学、社会数理システム

教授／伊藤 一帆

世の中で起きている現象を数式を用いて表現することを数理モデリングといいます。そして、その数式を分析することにより、複雑な現実の本質が見えてきます。経済現象を中心に、この一連のプロセスを修得しましょう。

【数理】基礎統計学、基礎統計学演習

准教授／平井 寛

あなたが仕事やその他の場で何か新しい提案をしようとするとき、その提案に説得力を持たせるにはどうしたら良いでしょうか。統計学は実際に起きた結果のデータに基づいた根拠を示すことができる有力なツールです。

【観光】観光政策論、観光資源保全・活用論

准教授／菊地 淑人

観光政策・計画という観点から、観光資源を活かした地域づくりを学びます。また、世界遺産をはじめとした文化・自然遺産の価値評価やマネジメントを学ぶことで、地域資源を守り、観光等に活かす方策を身につけます。

【観光】観光経営論I・II

教授／田中 敦

訪日観光客の急増など変化が著しい観光について、地域とグローバルの双方の視点から幅広いテーマを取扱います。また観光経営等の学修を通じて、マーケティングや企業経営の基礎知識を実践的に習得していきます。

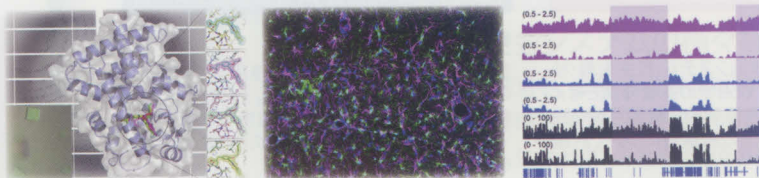
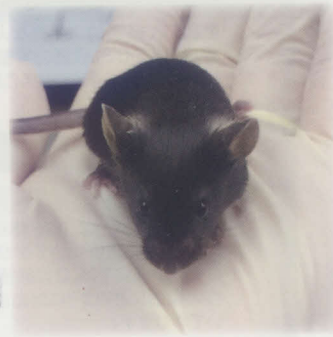
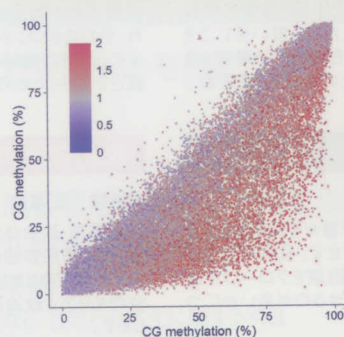
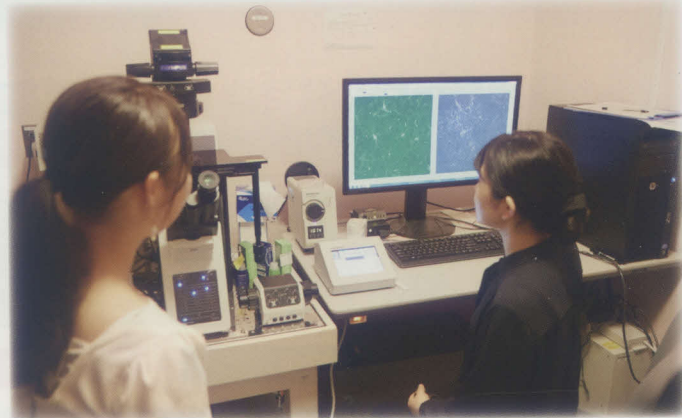
特別コース

生命工学科 バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース (2022年4月新設)

[活躍できる分野・進路] 創薬系企業・情報産業・CRO系産業・基礎医学研究者・公務員など

医学・薬学の基礎知識をもち データサイエンスのスキルを身に付けた 生命科学系専門職業人を養成

「バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース」は生命工学科に2022年4月に新しく設置されたコースで、医学・薬学の基礎知識をもちデータサイエンスのスキルを身に付けた生命科学系専門職業人の養成を目的に、生命科学・医学・薬学分野における数理・データサイエンス教育を行います。入試については、生命工学科本科と特別コースを区別せず、一括で募集し、クラス分け(コース配属)は、希望や成績等に基づき、2年次への進級時に実施します。約10名程度が特別コースに配属されます。特別コースの学生のうち約半数は、生命環境学部生命工学科の学生として、医学部の特定の研究室で卒業研究を行うことが可能です。



地域食物科学科 ワイン科学特別コース

[活躍できる分野・進路] 食品産業・ワイン産業など

地域産業が抱える課題に対応できる 食品科学のエキスパートを育成

「ワイン科学特別コース」では、ワイン製造をモデルとして食品製造に熱意を持った技術者・研究者を育成します。地域食物科学科の通常カリキュラムに加え、1年次からブドウ・ワインに関する授業を受講し、ワイン科学に関する最先端の知識と技術を学びます。さらに、「ブドウ栽培学実習」「ワイン製造科学実習」の実習科目や、山梨県内のワイナリーでブドウ栽培やワイン製造の現場を体験する「インターンシップ」などを通じて、食品の原料生産から加工までの実践力を養成します。



観光がうみだす新しい価値の探求

観光産業や観光地域づくりの「現場」における学びを重視した教育プログラムを通じて、観光地経営(マネジメント)に関する地域志向型教育を実践し、観光に関する知識・技術・センスを兼ね備えた地域のリーダーとなりうる人材を養成します。

ポイント 1

地域社会システム学科の科目のなかでも、
観光系の科目を重点的に履修！

観光政策科学特別コースの学生は観光系の科目を重点的に学びます。観光系の科目は、観光政策科学に関する入門科目のほか、観光資源の保全・活用、観光ビジネス・経営、観光政策など多岐にわたる専門科目、また、外部講師による特別講義も開講されています。



ポイント 2

履修を観光政策科学特別コースの学生に限った
学外での実習授業を開講！

観光先進地域などにおける実習授業は観光政策科学特別コースの学生のみが履修可能！百聞は一見に如かず。観光のリアルな現場から得られる知見は観光の学修を深めるうえで欠かせません。



2022年度 個別学力検査志願状況

()内は2021年度の数字

学科／募集区分	前期日程			後期日程			総合型選抜Ⅱ(2021年度入試より実施)		
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
生命工学科 ^{**}	32(27)	65(61)	2.0(2.3)	5(5)	54(39)	10.8(7.8)	3(3)	14(4)	4.7(1.3)
地域食物科学科	30(30)	53(35)	1.8(1.2)	5(5)	47(23)	9.4(4.6)	2(2)	12(7)	6.0(3.5)
ワイン科学特別コース ^{**}	13(13)	24(19)							
環境科学科	22(22)	42(47)	1.9(2.1)	5(5)	48(24)	9.6(4.8)	3(3)	9(4)	3.0(1.3)
地域社会システム学科	40(40)	109(94)	2.7(2.4)	5(5)	83(80)	16.6(16.0)	3(3)	7(6)	2.3(2.0)
観光政策科学特別コース ^{**}	13(13)	45(37)							
合計	124(119)	269(237)	2.2(2.0)	20(20)	232(166)	11.6(8.3)	11(11)	42(21)	3.8(1.9)

※2022年度に設置されたバイオ・メディカルデータサイエンス特別コースは生命工学科と区別せず一括で募集し、クラス分け(コース配属)は希望や成績等に基づき、2年次への進級時に実施します。

※ワイン科学特別コースの人数は、地域食物科学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。

※観光政策科学特別コースの人数は、地域社会システム学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。

大学院（修士課程・博士課程）

学 部	
生命環境学部	生命工学科 (バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース)
	地域食物科学科 (ワイン科学特別コース)
	環境科学科
	地域社会システム学科 (観光政策科学特別コース)



大学院（修士課程）
生命環境学専攻 ● バイオサイエンスコース ● 食物・ワイン科学コース ● 地域環境マネジメントコース (山岳科学特別教育プログラム)
工学専攻 ● 流域環境科学特別教育プログラム
生命医科学専攻



大学院（博士課程）
統合応用生命科学専攻 ● 生命農学コース ● 生命医科学コース ● 生命工学コース
工学専攻 ● 環境社会システム学コース
[HP] http://www.eng.yamanashi.ac.jp/hakushi/

生命環境学専攻（修士課程）『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

●生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的としています。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻には、以下のコースがあります。

バイオサイエンスコース

生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究。

食物・ワイン科学コース

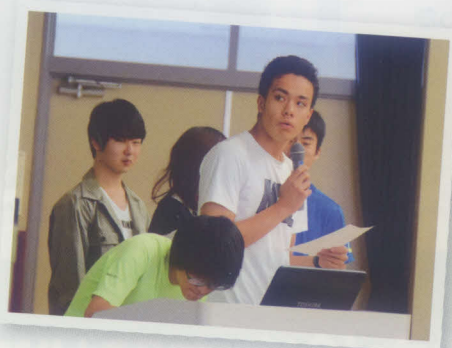
ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産・加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究。

地域環境マネジメントコース

環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究。

●「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によって解決する意欲をもつ人を求めます。

●4つの特別教育プログラム(発生效学技術開発・実践、流域環境科学、先端脳科学、協応行動科学)に参加することもできます。



統合応用生命科学専攻（博士課程） 医工農の分野横断的な教育と研究

●統合応用生命科学専攻(博士課程)は平成30年4月に新設されました。修士課程と同様に医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。生命環境学部、生命環境学専攻(修士課程)に接続する専攻であり、山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程で、ワインや発生效学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。本専攻には以下のコースがあります。

生命農学コース

発酵・食品に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成。

生命医科学コース

免疫や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成。

生命工学コース

発生效学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成。

2020・2021年度進路状況

生命環境学部

学 科	卒業年度	卒業者	進学	就職	就職先
生命工学科	2021	34	26	7	経済産業省、浜松市役所、株式会社シャトレゼ、巴工業株式会社、アイシア株式会社、菱機工業株式会社、株式会社ワイイーシーソリューションズ
	2020	33	26	6	山梨県庁、都留市役所、浅田レディースクリニック、ノベルズ、日本システムウエア、東京計器インフォメーションシステム
地域食物科学科	2021	39	14	22	自営業(農業)、国土交通省北海道開発局、株式会社日本オープンシステムズ、栃木県庁、株式会社リノ 丸水札幌中央水産株式会社、KURKKU FIELDS、埼玉県庁、ネボン株式会社、株式会社シャトレゼ、株式会社アトム、株式会社銀座コージーコーナー、株式会社武蔵野、盛田株式会社、株式会社シャトレゼ、TSメリクロン株式会社、(株)シャトレゼ、キング醸造株式会社、アドバンテック株式会社シオノギファーマ摂津工場、シーク株式会社、東海漬物株式会社
	2020	35	12	18	長野県庁、石川県庁、福島県庁、AKホースガーデン、麻屋葡萄酒、ハイデイ日高、不二家、ハーベスト、INGS、トーカー、三生医薬、静岡ビルサービス、モトックス、小山本家酒造、エノテカ、河野酢味噌、栄屋乳業、高砂香料、モンテ物産
環境科学科	2021	29	15	14	林野庁、山梨労働局、長野県警察、静岡市役所、豊田市役所、開発技研株式会社、アジア航測株式会社、株式会社環境と開発、エーティーエルシステムズ、日本赤十字社諏訪赤十字病院、明星電気株式会社、東海旅客鉄道株式会社、須賀工業株式会社、ヴェオリア ジェネッツ株式会社
	2020	30	9	20	国土交通省関東地方整備局、山形県庁、静岡県庁、富士吉田市役所、笛吹市役所、甲府地区広域行政事務組合消防本部、東海旅客鉄道、静岡銀行、岐阜信用金庫、TOKAIホールディングス、東洋熱工業、エンビジョンAESCジャパン、ジーンズ、日本臓器製薬、サンブリヂリアリアルエステート、リビングライフ、エイブル、やまなし勤労者福祉会、税理士法人スマッシュ経営、文理学院
地域社会システム学科	2021	44	0	42	山梨県庁、山梨県果樹試験場、甲府市役所、甲斐市役所、富士吉田市役所、都留市役所、甲府地区消防本部、宇都宮市役所、鶴岡市役所、警視庁、長野県市町村職員共済組合、筑紫農業協同組合、公立学校共済組合北海道支部、日本年金機構、三井住友信託銀行、日本政策金融公庫、朝日生命保険、山梨中央銀行、松本信用金庫、山日YBSグループ、オキノ、YSK e-com、セブン-イレブン・ジャパン、パナソニック、クスのアオキ、日商エレクトロニクス、UH製作所、KACHIAL、アサマビジネスサポート、ラクト・ジャパン、システムエグゼ、ダイヤモンドファンタジー、ともにあーる、小泉機器工業、湧永製薬、ライオン事務器、シー・シー・ダブル
	2020	49	1	44	山梨県庁、栃木県庁、鳥取県庁、甲斐市役所、富士吉田市役所、佐倉市役所、一関市役所、沼津市役所、山梨県教育委員会、山梨中央銀行、岐阜信用金庫、日本放送協会(NHK)、明治安田生命保険、フコク生命、三菱食品、NTTコムウェア、マクロミル、白泉社、日商エレクトロニクス、日通商事、遠州トラック、内海造船、大日本除虫菊、東芝キャリア、日興システムソリューションズ、みらい建設工業、BOOM UP、三谷コンピュータ、フォネット、カルク、YSK e-com、山梨トヨタ、いちやまマート、日本赤十字社千葉県支部、ジーンズ、BluAge、アルファ、MBM、Wiz、HAMAYA

生命環境学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進学	就職	就職先
バイオサイエンスコース	2021	23	4	17	山梨県庁(2名)、市川三郷町役場、理化学研究所、株式会社Mizkan、医療法人ハート広島HARTクリニック、株式会社野村総合研究所、株式会社EP総合、静岡ガス、株式会社昭和メディカルサイエンス、日本コーンスターチ株式会社、医学書院、遠藤科学株式会社、アンファー株式会社、株式会社日本電気特許技術情報センター、株式会社サン、フーズ、テンヨ武田
	2020	21	5	15	ニチレイフーズ、扶桑薬品工業、日本ケミファ、シオノギテクノアドバンスリサーチ、神戸屋、スジャータめいらくグループ名古屋製酪、NTTデータ・アイ、日本特殊塗料、三和化学研究所、伯東、ニッポンジーン、ホルス、千代田化工建設、クラステクノロジー、上海合全药业股份有限公司(上海合全薬業株式会社)
食物・ワイン科学コース	2021	7	0	5	丸善食品工業株式会社、株式会社ワールドインテック、winhealth シンワフーズケミカル株式会社 山梨営業所、PCIソリューションズ株式会社
	2020	14	1	9	独立行政法人製品評価技術基盤機構、三栄源エフ・エフ・アイ、アビ、フジッコワイナリー、安曇野食品工房、黄桜、東海漬物、社会福祉法人サン・ビジョンサンサンワイナリー、グリコ栄養食品
地域環境マネジメントコース	2021	5	0	5	山梨県庁、中津川市役所、TIS長野株式会社、株式会社メイキョー、浜松市小学校
	2020	7	2	3	JA全農(全国農業協同組合連合)、日立産機ドライブ・ソリューションズ、エース

工学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進学	就職	就職先
流域環境科学特別教育プログラム [※]	2021	3	0	3	地方共同法人日本下水道事業団、飯田鉄工株式会社、株式会社HTKエンジニアリング
	2020	3	0	3	静岡県庁、国際航業、八千代エンジニアリング

※流域環境科学特別教育プログラムの進路状況については、生命環境学部卒業生の進路状況のみ記載

キャンパスライフ

進路!



食事!



生活!



健康!



勉学サポート

- 各学科では、学年ごとにクラス担任が決まられていて、学び方・生活などのアドバイスを行っています。
- 大学での学び方についての授業科目(共生科学や生命環境基礎ゼミなど)があります。
- 数学・理科などの科目では、高校での勉強の復習から始まる基礎教育を行います。
- グループ学習・実習ができ、数学および物理などの個別指導を受けられる学習支援室があります。
- 附属図書館には、静かな空間で勉強に集中できる「サイレントエリア」、グループでディスカッションできる「ラーニング・commons」があります。また、開館時間以外および休館日に館内閲覧・館内資料の文献検索等が利用できる特別使用(申請が必要)もできます。

その他のサポート

- 広報活動などを通じて、保護者・出身高校とのつながりを大事にしています。保護者の方には、毎学期成績表をお送りしています。
- キャンパス全域に高速無線LAN設備があり、インターネットが自由に使えます。
- キャリアセンターでは、就職に関する様々な情報提供や各種セミナー・ガイダンス・企業説明会の実施、キャリア発達を支援する個別相談を実施しています。(https://www.career.yamanashi.ac.jp/)
- 保健管理センターでは、健康診断、医師による診察、保健師等による健康相談・保健相談、けが等の応急処置などを行っています。(https://health.yamanashi.ac.jp/)
- 学生サポートセンターでは、悩みごとや困りごとに関する相談やカウンセリング、支援を必要とする学生の修学支援を行っています。(https://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/)
- 国際交流センターでは、留学生のための相談室で修学・生活上の相談に応じるほか、海外留学支援など、留学生の受入・派遣に関する教育や支援を行っています。(https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/)
- 大学ホームページ「キャンパスライフ」に学生寮、奨学金の情報が 있습니다。(https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/)

様々な相談に応じられるよう連携し、
学生相談の体制を整えています。



関連施設

学部附属施設



■ 附属農場 甲府市小曲町に設置された附属農場は総面積約2.5haの施設で、場内には管理棟(575㎡)、ガラス温室(480㎡)、堆肥舎、人工気象室、植物工場などの施設があります。山梨県の特産果樹であるブドウ・桃に加え、様々な農作物を作付けし、教育・研究に利用しています。また、全学科1年次生がこの農場で「生物資源実習」を受講し農学の第一歩を踏み出します。

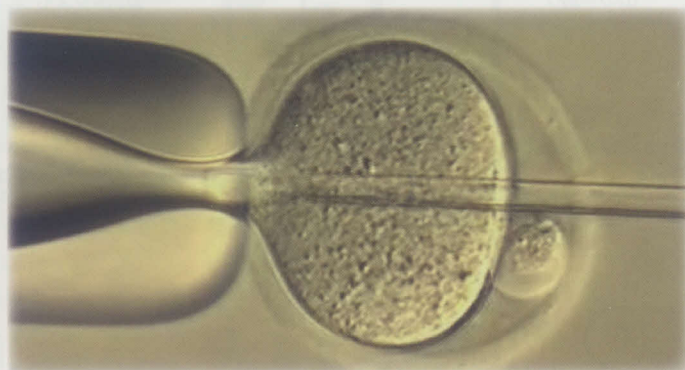
学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・高度生殖補助技術センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。



■ 発生工学研究センター

卵子や精子、体細胞の核を自由自在に操れるマイクロマニピュレーターを14セット備えた世界トップクラスの研究施設です。クローン動物やキメラ動物を作成することで、生命現象の解明に貢献するだけでなく、バイオテクノロジーによる食糧問題の解決や一流研究者の養成に取り組んでいます。



■ 高度生殖補助技術センター

不妊治療に携わる専門職である胚培養士を育成する教育研究センター(2022年4月設置)です。生命工学科・発生工学研究センターならびに学内外の不妊治療施設と協力して、マイクロマニピュレーターを用いる顕微授精や胚凍結等の生殖補助医療技術の習得を含む生殖補助医療(不妊治療)分野の教育研究を行います。



■ ワイン科学研究センター

日本をリードするワイン科学を専門に研究するセンターです。60年以上の歴史があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界をリードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。



■ 国際流域環境研究センター

水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気など水にかかわる問題に対応するための研究を行っているセンターです。アジアを主として、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカやアフリカの大学・研究機関と連携し、国際的な研究と教育(流域環境科学特別教育プログラム等)を行っています。

新宿から甲府まで電車で**最速85分**。意外と近いんです!!

静岡駅から**134分**。富士駅から**106分**。岡谷駅から**48分**。



9:00授業開始!!
 住居費をかけず東京から通学できます。
 【特急】八王子07:29発→甲府08:27着
 【普通】八王子06:57発→高尾07:07発→甲府08:38着



電車・バス

新宿⇒甲府駅 都心からだと、最速85分。特急なら乗り換えなし。

- JR中央線 特急「あずさ」または「かいじ」で最速85分
- 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- ①JR中央線(塩尻駅経由)／塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え
- ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)／静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え
- JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

車

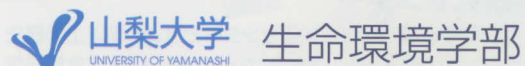
東京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI - FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES



TEL.055-220-8803

〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37

<https://www.les.yamanashi.ac.jp/>



スマートフォン用



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。